

愛国心を持つことがなぜいけないのか？

朝日新聞や社会党・共産党・民主党などのように「反日」を標榜する連中がいる。共産党機関紙「赤旗」で、朝日の「誤報」をずっと報道せず、ようやく9月に隠しきれなくなって記事にしたという。笑い話ではない。「日本」と聞いただけで虫酸が走るというような連中もいるが、たとえばノーベル賞作家とか歌手のナントカといったヤツラであるが、嫌なら日本から出て行けばいい。居ってくれと誰も引き止めない。大江など、沖縄戦の取材をまともにせず日本軍を貶めるための捏造だらけの著作を出版する。裁判をしても、裁判官がまた、できの悪いのが判断するから罪にも問えない。そもそも裁判官で「正常」なのがいるのだろうか。いい加減な判断をするのがいくらでもいる。最近ちょっとまともな判決をしたのは、裁判員になって殺害場面がでてきてノイローゼになり、会社もクビになった、などとごてた婆さんが国を訴えたのに対して、正当に無罪判決を下したのがあるくらいである。あたりまえのことで、初回に残虐場面がでてきて、その後もずっと何回か出席しておいて、全部済んでから訴えるなど、明らかに初めから裁判を目的にしているようなものを、なぜ認めなければいけないのか？ いやなら、2回目には「耐えられない」と拒否すれば済むだけのことで、その権利もある。些細なことに言いがかり因縁をつけ、裁判に持っていかうとするアメリカ並みの「いやな社会」になってしまった。

それはともかく、愛国心である。学習院大学教授篠沢秀夫氏が「愛国心」を著している。クイズダービーでは、故意か真実か、無知の代表のような存在だったが、やっぱり考えてんねんで。

その中に「アロン収容所」を著した会田雄次氏が、友人の高校教師の招きで授業を参観したときのことを書いている。昭和30年代の名古屋の高校である。

航空機による特攻隊が敵艦船を攻撃に行ったが、邀撃した戦闘機かVT信管の対空砲火によってか、撃墜され海中に突っ込んでいく場面が写されていた。普通の日本人なら、あるいはまともな神経の持ち主なら、この特攻兵の無念を思いやり、悔しがらるだろう。(小生は、最近特攻隊の話を読んでいたところだったから、余計にそう思うのかもしれない)

すると、あろうことか、この高校生たちは全員が大爆笑して拍手して囃し立てたのである。高校教師は、「ウチは平和教育が徹底しているからな」と自慢したというのである。つまり、特攻隊は歪んだ愛国心の持ち主で、撃墜されたのは因果応報だというのであろうか。

高校生といえば、特攻兵と同じか、3~4歳年下だろう、少なくとも同世代になる。特攻兵がどういう思いで十死零生の攻撃に出撃して行ったか考えたこともなく、学校側の言う「皇国史観」とか、「犬死」とか、何も考えずに国の命令に従って死によったくらいに思っ

ていたのだろうか。学校側の言うとおりにのみ判断し、それを他人は「洗脳」という。

高校生といえば、人生でもっとも輝いていて、煌いているときである。乾いた砂に水が染みこむように抵抗なく知識や哲学が吸収される時期で、人間的にも成長するもっとも多感な時期だろう。このときに、上記のような偏った知識しか教わず、自ら思索することもなく、一片の憐憫の情もなく、疑問も感じなかったなら、そういうのを低能、アホウという。

特攻隊の少年兵たち、高々20代前半の青年たちが、日本のため、両親や兄弟姉妹や恋人、あるいは後世のわれわれのために玉砕していったことを考えないのか。彼ら特攻隊員が死を決意するまでの葛藤など、思いもよらなかったのか。学校側も、そういう「情操教育が必要だ」と思わなかったのだろうか。道德教育を捨て去った「日教組」が諸悪の根源といわれてもやむを得ない。

特攻隊、ひいては日本軍を貶めることが直ちに平和につながる、とでも思っているのだろうか。「平和」を合唱すれば平和が来る、と本当に信じていたのか。それなら、藤原正彦氏のいう「夢見る乙女」である。頭の中は空っぽ。

こんな「洗脳」された連中が、自分の子や孫を躰けてきたのである。現在の殺伐とした社会を作ってきた元凶はこの連中ではないか！

先の特攻隊の画面を、フランスに留学中に映画館に入った篠沢教授がたまたま見た。特攻機が米艦の腹に見事に激突したとき、映画館中の客が大拍手で褒め称えた。篠沢さんは、思わず「メルシー！メルシー！」を連発したという。

愛国心と大上段に振りかぶらなくてもいい。日本が好きか、故郷が好きか？でもいい。好きな所ならゴミを捨てたり、汚したりしないだろう。サッカー・ワールドカップでの日本のサポーターのいた跡の塵がなかったことが、世界中で認められるようになった。

自分たちさえ良ければ、と権利のみ主張し、義務を果たさない輩が跋扈し、振り込め詐欺やら無差別殺人など、さらには、わが子さえ、抵抗できないのをいいことに殺すなど、いやな事件ばかり発生する。責任は、家庭ではなく、社会にあると責任転嫁し、その奇妙で不可解な論理というのがボクには理解できない。

どの国からも偶々攻撃されず、安逸を貪り、ノー天気にごろごろしてきた。平和を念仏のように唱えてきたからと思っている（政治屋にもいくらでもいる）。憲法9条をノーベル平和賞にという主婦まで出てきて、何考えとんねん。（どうせ大伴の黒主がいるのだろうが）日本国憲法ひとつで、戦争はなくならない。少なくとも日本は戦争に参加しなくてもよくなった、という意味で言っているなら、一国平和主義のつもりなら世界中は納得しないし、

彼らを説得できない。日本はまともな軍備を持たずにアメリカの核の傘の下で、平和を貪ってきたといわれても仕方がない。佐藤栄作がノーベル平和賞をもらったのは、「非核三原則」を宣言したからで、世界中の反応は、「これで日本は核開発をしないぞ」と安心したからである。世界中から平和ボケと揶揄され、一体誰がそうしてきたのか？ 洗脳された連中ではないか。

たまたま特攻隊を例に挙げたが、南太平洋、アリューシャン列島、千島列島、あるいは大陸で、沖縄、サイパン、硫黄島、いずれも援軍が来ないのを承知で、家族や「まだ見ぬ僕たち子孫のために」戦ってくれた（青山繁晴氏が声涙ともに下る口調で語った）兵士の心を思いやることもできない。当然**日本という国を愛する気持ちなどさらさら**ない。

ボクは日本人であってよかったと思うし、大阪が好きやし、まともな人なら誰しも故郷が好きだろうと思っている。三陸大津波のあと、テノール歌手が日本語で「ふるさと」を歌った。聴衆も涙を流しながらともに歌った。**再び問う、自分の生まれた、今住んでいるところを愛する、愛国心を持ったらなぜいけないのか？**

歪んだ愛国心が戦争を引き起こしたと信じきっている反日主義の連中が狂っているのだ。まったく違う。「侵略戦争」？ どこがやねん。戦争の原因は、単純なものではない。政治家 **Statesman** ではなく、思索を放棄し、利権を追いかけることしか考えない政治屋 **Politician** が「侵略」などとバカなことを語りだす。日本の代表やねんから、ちょっとは考えたらどうや。チマチマと政務活動費を誤魔化して、わずか 2~3 百万円のために、結果的には、生涯を棒に振ることしか考えていない地方議員のいかに多いことか。兵庫県議のみっともない姿に呆れかえる。国会議員でも、資金がどこから来たかわからなくなって、辞任せざるを得なくなる。みっともない話ばかり。国会議員でも然り。

そういう歪みに毒された連中が、平気で街中を歩く。盲導犬を傷つけたり、白い杖をついた全盲の女性とぶつかって倒れたかで不快に思い、追いかけて行って蹴っ飛ばすなど、言語道断。相手は、目が見えないからどこから攻撃されるかわからない。きわめて簡単に攻撃できるし、反撃をくらうこともない。彼女は、白杖を自転車に折られたこともあるというし、嫌がらせは日常茶飯事だという。盲導犬を連れて電車に乗ると「なんで犬を乗せてくるねん！」と叫ぶバカもいるという。弱者のことを思いやる余裕がなくなって、本当に嫌な世の中になってしまった。これなら江戸時代に盲人を粗略にすることを禁じたことの方がはるかに進歩している。今、猛烈な憤りを感じている。

2014.10.03.